

高齢者の栄養・食の自立支援事業

(公社) 高知県栄養士会

副会長 新谷 美智

高知県栄養士会は、高知県から「平成29年度高知県リハビリテーション専門職等活用事業」の補助を受け、高齢者の栄養・食の自立支援事業を実施しました。

この事業の一つとして、市町村における介護予防事業や地域ケア会議等に関する管理栄養士・栄養士の人材育成のための研修会（2回）の開催、先進地視察研修で、大分県杵築市、埼玉県和光市での地域ケア会議を傍聴しました。その研修内容を報告します。

第1回介護予防及び地域ケア会議に関する研修会：平成29年7月30日（日）

「地域包括ケアシステムの理解

～高知県の高齢者の現状と課題・介護予防の取り組みについて～

講師：中村 知佐（高知県地域福祉部高齢者福祉課 課長）

中村氏のご講演では、なぜ「地域包括ケアシステム」が必要なのか、地域包括ケアシステムの構築に、市町村はどう取り組んでいくのかについて述べられました。

具体的には、平成27年4月に施行された「総合事業（介護予防・日常生活支援総合事業）」の導入背景、日本の将来推計人口、高知県の将来推計人口、高知県の社会保障の未来について話され、高齢者単身世帯の割合が増加することから、高齢者の生活を地域全体で支援する（ご近所からボランティア、専門職までみんなで支える）取り組みの必要性について述べられました。平成29年4月から全ての市町村で要支援1、2の方に対して、新しい総合事業によるサービスを実施とされていますが、内容的には多くの介護事業者が行う従前どおりの通所サービス、訪問サービスのみとなっていることへの現状と課題について、また、新たに「地域リハビリテーション活動支援事業」が追加され、地域における介護予防の取り組みを強化するために、通所、訪問、地域ケア会議、サービス担当者会議、住民運営の通いの場等へのリハビリテーション専門職等の関与を促進する等、県の市町村支援の取り組みについて紹介されました。

「地域ケア会議での栄養士の役割～事例を通して考える～」

講師：濱田 美紀（公益社団法人大分県栄養士会 管理栄養士）

濱田氏のご講演では、大分県地域ケア会議での個別事例検討に対し、栄養士として日常生活を営む上で基本となる食事について、適切な栄養摂取といった観点から具体的な助言を行うための手法について演習を含めて話されました。

地域ケア会議でのアドバイス内容は、食生活について聞きとりできない方には、体重変化・表情・皮膚の状態などの確認、わかりやすくまとめて説明する（アドバイスは2～3個でまとめる）、現実に家で継続できそうな事を伝える（理想は言わないようにする）、個人因子のみでなく環境因子も考えて発言することが大切であると述べられました。また、買い物・調理・食べる場所・家族・近隣との関係等、疾病がある方は予後も考え、直ちに変えるべきものを伝えることが必要で自分の地域のサービスも知っておくことが必要（配食・料理教室・サロン等）だと話されました。地域ケア

会議に参加することの成果や課題、食事管理の好事例支援例についても紹介されました。

地域ケア会議助言者研修（演習）では、基本情報・アセスメント・ケアプランの確認ポイント、事例の勧め方等、一連の流れを栄養士の視点で確認し合いました。

最後に、住み慣れた地域で安心して生活していくためには、保険者・地域の資源・専門職の連携が必要であると結ばれました。

第2回介護予防及び地域ケア会議に関する研修会：平成29年10月28日（土）

「高齢者の栄養・食の自立支援について」

講師：新谷 美智（公益社団法人高知県栄養士会 副会長）

高齢者のアセスメントの重要性、高齢者の栄養管理ガイドライン、高齢者における新しい食事摂取基準、低栄養状態を判断するための評価、口腔機能低下と栄養状態の低下、認知症と食について述べました。また、食べる連携として、必要な状態から考えられる主なこと、伝える情報、入手する情報等を個々の状態に応じて具体例を紹介しました。

「多職種『見える事例検討会』体験講座」

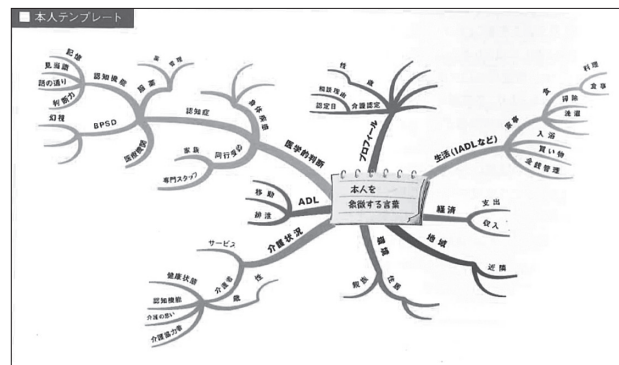
講師：八森 淳（メディコラボ研究所 代表取締役（医師））

大友 路子（メディコラボ研究所 社会福祉士）

事例提供者：高知市南部地域高齢者支援センター 保健師

「見える事例検討会（見え検）」とは、多職種・多部門で行う事例検討を可視化（見える化）したもので、可視化ツール「見え検マップ」とアクションプラン型エコマップ「見え検式エコマップ」を用い、参加者が情報・状況を共有し、課題分析を行い、解決の糸口を見つけ、アクションプランをつくっていく事例検討の手法です。

認知症版「見え検マップ」の基本骨格は、中央の「本人のよく言う言葉」と中央から分枝する8つのカテゴリーで構成されています。分岐する太い枝を「メインブランチ」と呼び、①プロフィール、②生活（IADL：手段的ADL等）、③経済、④地域、⑤環境、⑥介護者、⑦ADL、⑧医学的判断でとなっています。



大友氏がファシリテーターとなり、見え検マップ・テンプレートにそって、事例提供者から事例の概要を聞き取り、八森氏が見え検マップを作成した。更に各参加者からも、必要とする情報を事例提供者より聞き、その答えた情報を見え検マップに追記しました。

「見え検」は、事例提供者にとって、多職種が参加することで、具体的なアクションプランが立てられ、対象者に適した支援が迅速に提供できると感じました。

現在、高知市の地域ケア会議ではこの手法を取り入れて開催しています。

平成30年度も引き続き、地域ケア会議に参画できる栄養士の人材育成研修を計画していきますので、多数のご参加をお待ちいたしております。